船井情報科学振興財団　留学報告書−留学先決定に至るまでの経緯−

2016 年度 Funai Overseas Scholarship 奨学生　磯村 真由子

2016 年 8 月より，Eidgenössische Technische Hochschule Zürich (ETH Zurich), Department of Chemistry and Applied Biosciences に進学予定の磯村真由子です．修士号は日本で取得したため，ドクター学生としての進学になります．留学先決定に至るまでの経緯についてご報告致します．

1. 留学決意までの経緯

高校時代の夢と留学

「海外に留学したい」という気持ちは高校生くらいから持っていました．その時はとても漠然とした気持ちでありましたが，将来グローバルに活躍できる人間になりたいという夢があり，そのためにはどこかの機会で長期留学して世界の人々と切磋琢磨し自分の視野を広げたいと考えていました．同時に，高校受験・大学受験を経て自分は有機化学がとても好きだと感じており，有機化学の研究に携われたらな，とこれまた漠然に思っていました．

大学 1,2 年生時代

とはいうものの，大学 1,2 年の間は主にサークル・カフェのバイト等に力を入れていて，留学に向けての具体的な準備は何もしていませんでした．私の大学では 1,2 年生は皆教養学部に所属し，文系/理系と様々な科目を満遍なく学ぶのですが，そのシステムに従い(甘えて)，特に化学に力を入れるわけでもなく，必修科目と推奨されていた授業を最低限の量しか取っていませんでした．大学時代の後悔を挙げるならばもう少しこの時代に専門の内容を勉強し，どのような研究室があるのかリサーチして，研究室訪問・出来たらインターン(研究室で実験をさせてもらう)などもっと自発的に行動しておくべきだったと思います．また，他の Funai Overseas Scholarship（以下 FOS）奨学生とお話し，短期海外留学プログラムが多くある事を初めて知り，こういったプログラム参加しておくべきだったと感じています．これらは単に研究/海外経験が得られるというだけでなく，推薦書や State of Purpose (以下 SoP)に盛り込む内容としても大いに有利になるからです．逆に，良かった点としては，履修した授業では必ずそれなりの成績が取れるようテスト前には集中して勉強していたお陰で奨学金出願や本出願の際重要視される GPA についてはあまり悩まずに済みました．

大学 3,4 年生時代

いよいよ進学振り分けが終わり私は理学部化学科に進学しまし，専門の勉強が始まりました．3 年生では化学の知識を一気に詰め込み，更に毎日の練習実験でいきなり勉強ばかりの毎日になりました．

4 年生になると研究室に配属され，やっと研究に携わるようになります．留学に向けても少しずつ具体的に考え始め，大学で開催されていた TOEFL の対策プログラムに参加しました．しかし，さぁ留学準備をしようというところで，自分は「世界にはどのような研究室があり，どのよ

うな研究を行っているのか」「自分は有機化学の何で博士号を取りたいのか」と言うことをほとんど知らないことに気づきました．大学のレベルや評判に流されて進学先を決めるのではなく，本当に行きたいと思える研究室を見つけなくては，とここで強く感じました．同時に所属していた研究室で興味のあったプロジェクトに携わる事が決まったため，結局修士課程はそのまま日本で取得し，その間に自分のやりたい事をハッキリさせようと決意しました．

大学院時代

ラボでの生活は思っていたよりもずっとハードでした．しかしこの経験を経て多くの実験技術を学び，たくさんの論文を読み込んで来たため，学部時代に比べて圧倒的に理解は深まっていました．大学院時代の研究から，自分は薬やバイオに興味があることに気づき，やりたいことや行きたいと思う研究室が定まってきていました．そして修士 2 年の春，いよいよ留学に向けて本格的に取り組む事になりました．

2. 出願に向けて

ここでは出願準備スタートから出願完了まで何をしてきたか具体的に記していきます．尚，最終的に自分はヨーロッパに進学する事になりましたが，出願先は Ph.D.を取るまでの年数や場所ではなく研究内容で決めた為，より多くの書類の提出を要求されるアメリカ大学院の留学を念頭に置いて準備をしていました．

4-6 月

春はとにかくテスト(TOEFL, GRE General, GRE Subject Chemistry)に力を入れていました．私は海外滞在や語学留学経験があるわけではなかったので，TOEFL と GRE General はとてもとても苦労しました．夏頃になると奨学金の募集も始まり，出願には高い TOEFL の点数が要求されます．これらのテストは慣れもある程度必要で，複数回受ける方がよいと思うので，なるべく早い段階で受けておくべきだと思います．

また，5 月の GW を利用して気になる研究室を幾つか訪問しました．これは非常に重要だったと思います．訪問は難しいという方は，CV を添付したメールでコンタクトを取り，Skype などで自分の研究のアピールなどしておくことで，グッと合格の確率が上がると思います．事前のコンタクトで既にかなり合格に近いポジションにまでいった友人を何人も知っていますので，是非勇気を出して教授に連絡を取ってみると良いと思います．

7-9 月

この期間は主に奨学金の応募を行っていました．財団はとにかくたくさん出しました．出願に際しては留学したい理由や研究計画など多くの書類を準備しなくてはいけません．こういった企画書は，直近の大学院出願の SoP に使えるのはもちろん，研究者としてこれからもずっと必要とされるものなので，時間があればじっくり練って作成するととても勉強になります．出来たら所属研究室の先輩や自分とは異なる専攻の人にも見てもらい，「どんな専門の人でも分かりやすい企画書」を作ると良いと思います．また，既に修士過程の方はある程度研究に携わっているとみ

なされるため，論文や発表経験があったほうが良いと思います．私は残念ながら論文は出せなかったのですが，学会などの発表を積極的にやらせて頂きました．

10-12 月

推薦書と SoP の準備を始めました．3 名の推薦者の選択は難しいですが，個人的には「自分の努力を分かってくれていて，具体的なエピソードを書ける人」を選ぶと良いと思います．

SoP は自分らしさを一番アピールでき，他の受験生との大きな差を生む大切な書類なのでなるべく多くの人に見てもらうと良いと思います．私の場合は 1. 研究指導教, 2. ネイティブスピーカー, 3. 実際に海外で Ph.D.を取得した先生 に見てもらいフィードバックを頂きました．また，米国大学院学生会のニュースレターも，非常に書類準備の助けになりました．

3. 合格発表

12 月はじめに出願が終わり，最終的な結果が出揃ったのはなんと 4 月中旬でした．第一希望であった Caltech は残念ながら不合格となってしまいましたが，第二希望であった ETH Zurich に無事合格することができ，私の長い海外大学院受験は終わりを迎えました．ETH の教授が「奨学金があるなんて素晴らしい」と言って下さったことから，FOS の合格が決定打となった事は間違いありません．

4. おわりに

私は修士号を取ってからの留学という少し異なった立場であったため，具体的な出願プロセスよりもどうして修士から留学しようとしたか，その経緯を重点的に書かせて頂きました．読んで下さって分かるように，私は早いうちから留学に向けて非常にアクティブだったわけでも，英語がペラペラだったわけでも，研究がバリバリできたわけでもなく，決して自信満々で留学を決意したわけではありません．むしろ他の留学生，研究室のメンバーを見て「すごいなぁ」「自分には留学なんて出来ないのではないか」と不安ばかりでした．しかしやはり留学したいという想いは捨てられず，ここで諦めたら絶対後悔するとも感じていました．そんな中最終的に出願を決意し，今留学生活のスタート地点に立つことが出来たのは，多くの方々からの応援や励ましであった事は言うまでもありません．なので今度は自分が，留学したいなぁと思っていながらも二の足を踏んでいる方，不安がある方の後押しが出来ればな，と思っています．この報告書が留学決意の一つのきっかけになってくれたら幸いです．最後に，留学を実現する大きなチャンスを与えて下さった船井科学振興財団の皆様にはいくら感謝してもしきれません．この場をお借りして，深く御礼申し上げます．この留学経験を通して大きく成長できるよう，全力で頑張ってこようと思います．